

表紙 の 説明

岡城(「荒城の月」で名高い城)について



表紙上段～中段の画像は、春の陽光を浴びた岡城の風景です。そのうち、二の丸に建つ早世の天才作曲家瀧廉太郎像もどことなく柔らかな表情です。

下段の2画像は、地上レーザースキャナで計測したデータから作成した三の丸西側にある高石垣の鳥瞰図です。連続する高石垣の規模と高低差には驚愕します。

■表紙画像のご提供先

「春高樓の岡城」

———瀬戸島政博(筆者)

地上型レーザー画像 ———リーグルジャパン(株)

〒164-0013 東京都中野区弥生町5-11-29 フジビル2F

http://www.riegl-japan.co.jp Tel : 03-3382-7340

使用機器：RIEGL社製 VZ-400

(ステップ角度0.01°)

全国には「荒城の月」のモデルとされる城が幾つかありますが、作詞者土井晩翠は仙台城(青葉城)、作曲家瀧廉太郎は岡城をイメージしたようです。

岡城は大分県竹田市にあります。JR豊肥本線の豊後竹田駅に列車が発着するたびに「荒城の月」のメロディーが流れます。七五調の抒情詩と哀切溢れるメロディーからなる「荒城の月」は時代を超えて日本人に親しまれています。

岡城は、阿蘇山に源を発する白滝川と稲葉川によって浸食された溶岩台地上の天神山(標高325m、比高96m)に築かれた城郭です。周囲は断崖絶壁の自然の要害です。文治元(1185)年に緒方三郎惟栄が源義経を迎えるために築城したと伝承されています。南北朝中期には大友氏の支族志賀氏の居城となり、豊臣秀吉の九州征伐後には中川秀成が播州から移封し、以降、中川氏が13代275年間続き、明治維新を迎えました。

岡城の特色の一つに石垣があります。場所によって石の積み方や石材が異なることが分かります。例えば、低い石垣には亀甲形や菱形に加工された石材が使われ、高石垣には自然石が整然と積まれています。

岡城の大手門直下の登城口には、カマボコ石と呼ばれている断面が半円形の石畳で縁取られた石段が続き、春の頃には美しい桜が出迎えてくれます(図-1)。その背後

には往時の高樓跡の石垣が望めます。まさに、「春高樓の花の宴」といった光景です。

しばらく石段を上ると大手門跡に着きます(図-2)。かつて大きな城門と番所が行く手を塞いでいました。方形の城門礎石と大扉開閉のための戸車跡が見られます。

岡城では随所で高石垣とその連続を見ることができます。大手門跡の周辺には幾重にも折り重なるように聳え立つ高石垣に圧倒されます(図-3)。

さらに、本丸方面に進むと初倉跡、西中仕切門跡を経て三の丸に続きます。三の丸西側は城内で最も比高差の大きな高石垣が連続し、敵兵を寄せ付けない防備となっています(図-4)。

三の丸の北東奥が二の丸で、深さ約70mの井戸や瀧廉太郎像が建っています。二の丸から一段上に本丸があり、本丸の南西隅にはかつて御三階櫓が建っていました。

また、大手門跡の西側には城内最大の面積をもつ西の丸が広がり、さらにその奥には家老屋敷跡や武家屋敷跡を見ることができます。

以上のように、岡城は急崖で囲まれ、さらに高石垣が累々と巡る巨大な荒城です。その城址と散りゆく桜花には、栄枯盛衰、盛者必衰の情感が伝わってきます。

(瀬戸島 政博)



図-1 カマボコ形石畳と桜、背後には高樓跡の石垣(筆者撮影)



図-2 大手門跡と城門礎石(筆者撮影)



図-3 大手門跡周辺の高石垣(筆者撮影)

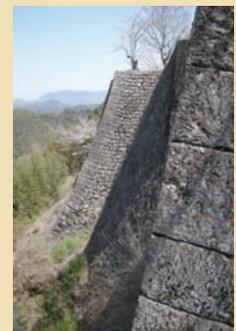


図-4 三の丸西側の高石垣(筆者撮影)